

# 平成27年度 小千谷市国語部 活動報告

部長 関 昌子

## 1 研究主題

- 教え、考えさせる授業づくり～音読、音読劇の工夫～

## 2 研究の概要

- (1) 学年別グループ研修会：2学期に向けて音読や物語文にかかわって各自が教材研究してきたものをレポートにまとめ、報告する。
- (2) 講演会：講演を聴き、授業作りに役立てる。



## 3 研究の実際

- (1) 8月20日 夏季学年別グループ研修会報告より

### ①音読の形態として

追い読み、一斉読み、グループ読み、交代読み、  
役割読み、一人読み、竹の子読み、  
まる読み（読点）、一行読み、段落読み、ページ読み、速読み、遅読み、リズム読み、強弱読み、間違いなし読み、ジェスチャー読み、増え読み、輪唱読み

### ②読む回数を多くするために

○を10個書き、読んだら黒く塗りつぶしていく  
1回目は座って、2回目は立って、3回目は後ろ向きで等体勢や向きを変えたりする  
読みの目的を示して読ませる

### ③題材別指導例として

「あらしの夜に」「川とノリオ」「モチモチの木」「スイミー」「ふたりはともだち」  
「かさこじぞう」「お手紙」「おおきなかぶ」

- (2) 8月20日 講演会 演題「私の考える国語科の教科特性と指導のポイント」

講師 南魚沼市教育委員会 指導主事 島村文男様

- ①授業中の子どものほめ方：ほめるべきは、「発言のしかた」。考えの善し悪しではない
- ②国語科の教科特性と単元名の付け方：子どもの学習目的と教師の指導目標が二重構造に
- ③課題の在り方、設定のしかた：活動目標？課題？ 問いの焦点化
- ④根拠をもった解釈を作らせる：「叙述を基に」「自分の考え」を述べる 「どういう言葉から分かりますか」 話型指導「～だと思います。証拠の文は、P○L○の～です。」  
叙述を根拠に解釈させると、子どもが教材文を読み返す（読む力は読むことによってつく）

## 4 成果と課題

- ・ 2学期に指導する単元の教材研究を行ったため、すぐに生かせると好評であった。
- ・ 学年別グループ研修会の時間が少なく、協議するまでには至らなかった。しかし、各自の研修成果を冊子にまとめたので、後日活用できる。
- ・ いろいろな読み方があり、どのような時にどんな読み方が有効なのか研修するとよい。
- ・ 講演会からは、国語科指導だけでなく、授業づくりにおける原点を学んだ。単元名は、授業者の単元にかける思いを端的に表すものである。楽しい言語活動、やりがいのある言語活動に子どもを誘いたい。